

「学校配置の見直しについて」説明会 質疑応答要旨（西生野小学校）

実施日時：平成 26 年 7 月 4 日（金）19：00～20：35

参加者数：89 人

出席者：（生野区役所）清野区長、竹沢副区長、北邑教育振興担当課長
（教育委員会事務局）川口学校適正配置担当課長
（学校）井上西生野小学校長、北野生野中学校長

統廃合の必要性やめざす方向性に関する質問・意見

- 1 学校の統廃合は効率性の問題で進められていて、子どもの教育という面があまり感じられない。また、地域特性を考慮されていないのではないかと。

（区長）

教育環境についてこれまで市内で画一的に考えてきましたが、区長が入って地域の実情に応じてやるように、と進め方が変わってきました。跡地についても売却だけでなく地域の実情に合わせて考えるようにということになっています。

子どもの教育という面でも、小規模校では教育環境の面で課題があるほか、校舎の建て替え等が後回しになったりしている現状があります。効率性の面もあるのは確かですが、それが全てという訳ではありません。

- 2 幼稚園児の子どもがいるが、他の保護者もどこの学校と統合されるのかについては不安を抱いている。希望の小学校に行けるから今の場所に住んでいるという人もいますので、統合されると行きたくない学校に行かざるをえないということになるのではないかと。決まっていることがあれば具体的に教えてほしい。

（区長）

児童数 120 人未満の学校を優先して統廃合の取組を進めるという大阪市全体のやり方であればわかりやすいですが、ほぼ全ての小学校が適正配置の対象となる小規模校であり、西側エリアでは毎年 10 人近く児童数が減っている学校もある現状では、学校選択制を導入してもその効果は限定的となるため、区全体の学校配置をまず考えていくべきだと思っています。

どこの学校と統合するにしても、子ども達が新しい学校に慣れてもらうための準備期間を十分に確保していきたいと思っています。そのためにも、意思決定は早くしていきたいと思っています。また、通学距離が長くなるので、統合の対象となる小学校が決まった段階で、新しい小学校の位置はどこが良いのかを公有地の活用も含めて検討していきたいと思っています。

- 3 適正配置審議会でも小規模校のメリットを主張している人がいる。学校の統廃合にあたっては、統廃合のメリットが出るような取組を進めてほしい。

また、クラスで班編成する、学校交流を盛んにする、小中一貫校にする等の対応策もある。児童数が少ない事は子どもにとって悪いとは思えない。少人数教育で地域を活性化してほしい。

大阪市の人口が減っているという話であったが、若い人にもっと住んでもらうような施策をしてほしい。

(区長)

以前の説明会では小規模校のメリットも資料に掲載していましたが、やはり小規模校では組み体操や器楽合奏が成り立たないといった教育活動の幅に制限が生じることと、人間関係が固定化されやすく人間関係づくりのスキルを高めにくいというデメリットが大きいということがあります。また、小規模校では教員の数が少ないので、12人くらいの学校でも30人くらいの学校と同じ事務量をこなさなければならず、校務の負担が重くなり、指導研究や子ども達と触れあうために割ける時間が限られてしまうということがあります。小規模校では、全児童の家庭環境を把握しやすいという状況は承知していますが、今後もそういった状況で学校運営を続けられるかはわかりません。

また、他都市から転入してきた方から、歩いて5分くらいの所にいくつも学校があっぴょくりした、という意見もいただいています。将来の人口推計を見ても、今後20年で子どもの数が現在からほぼ半減するという結果も出ています。そうなる前にまちづくりと学校のあり方を考えていただきたいと思います。

(川口課長)

統廃合のきっかけは子どもの数が減ったことですが、小規模校のメリット等も考えたうえで、地域の協力を得ながら適正配置に取り組んでいくというのが教育委員会の答申や指針の趣旨です。

- 4 小学校は防災上の避難場所である。統廃合されると避難場所がなくなる。

(区長)

今までは廃校になった学校の跡地は売却することが前提だったのが、そうではなくなってきた状況です。これから区の防災計画の見直しをやっていきますが、区西側エリアは小学校だけでなく他の学校も避難場所に指定していています。

廃校になると施設の管理が難しいですが、避難場所として使い続けられるような方策も検討していきたいと思います。

統廃合の進め方に関する質問・意見

- 5 単学級の弊害はわかっているので学年2クラス以上必要だというのは賛成である。一方で校舎の建て替えは完了していない。また、勝山小学校が目前にあるのに配置では別ブロックになっている。西生野小学校下でモデルとなるような取組をしてほしい。

(区長)

勝山小学校区は進学先が別なのでAブロックに入れていますが、地域からBブロックでという話があれば対応します。生野区の事情に応じて子どものために投資することについてもご議論いただければと思います。

統廃合後のあり方に関する質問・意見

- 6 西生野小学校が廃校になったとしても、公園付きのマンションにする等若い人が増えるようにす

る必要がある。

(区長)

魅力的なまちづくりは大切ですし、地域まちづくり協議会でまちづくりをやっていただいています。民間の投資を呼び込む観点からも学校環境は重要です。

7 通学時の見守りをやっているが、児童の安全はどう確保するつもりか。

(区長)

見守り活動の大切さは実感しているので、それをどう継承していくかという議論を皆さんと今後行っていきます。昨年度に全小中学校をまわった時、通学距離の課題は色々なところでお聞きしました。小学校では学校選択制は導入しないが通学距離が長い場合は指定校の変更ができるようになるので、隣の地域の子どもも見守っていただく形で輪を広げていくお話ができればと思っています。

その他の質問・意見

8 市の財政が厳しいから学校が存続できないという風に受け止めているが、この地域は税金を投入したのに人が移り住んでこない土地になってしまった。他地域で人が増えているところは、民間資本が環境を作っている。この責任をしっかりと踏まえた上で進めてほしい。

(区長)

生野南部事業についてのご意見は重く受け止めています。今まで市街地ではなかったところを民間資本が開発するのではなく、区西側の古くから市街地化されていて狭い所に家屋が密集して建っていたエリアを整備していったら、という状況はご理解いただきたいと思います。生野南部事業で市営住宅を建てた時には今まで住んでいた人しか入れない、という制度には疑問も感じています。また、耐震性等があれば、古い家を改修して移り住んでいただくという取組も進めています。

9 校舎が建て替わってまだ10年も経ってないのにこういう話が出てきたのはなぜか。

(区長)

当時の子どもの数と現在とは状況が違うというのも事実ですが、10年前と大きく違うのは、区役所が関与できるようになったことです。地域と近い所で意見をいただきながら考えていきたいと思っています。

(川口課長)

学校配置の適正化は昭和55年からやっていますが、平成15年に子どもの数が減っているので諮問をし、平成16年答申を頂いて北区等で統合しました。その後、平成20年と22年に答申を頂いたものでそれに基づいて進めています。

西生野小学校は、最初の答申の時には対象校ではなかったのが建て替えが実施されたのではないかと考えています。

10 西生野地域で子どもを増やすことをもっと考えてほしい。周りの地域もマンションを建設しているところは若い人が増えている。子育て層への支援も市長が変わってから減らされている。

(区長)

通学区域校の児童数が少ないから引っ越していくということも考えられるので、児童数が一定規模を下回った場合に加速度的に児童数が減少するような事態は避けたいと思っています。また、統廃合だけを進めるのではなく、生野区の学校はこういう特徴があると言える学校づくりや子育て層の方に来て頂けるようなまちづくりも一緒に進めていきたいと思っています。